横須賀水交会

【潜水艦隊司令官挨拶】

海将　道満　誠一

昨年８月に第21代潜水艦隊司令官を拝命しました道満です。

横須賀水交会の皆様には常日ごろから温かなご支援を賜り、潜水艦部隊を代表し厚く御礼申し上げます。

17年前に自宅を横須賀に設定しましたが、やっと今回初の当地の勤務となりました。横須賀のことは十分に知っているつもりではありましたが、潜水艦隊司令官として１年３ヶ月が経過し、今までとは違った横須賀の一面を見ることもあり、新鮮な気持ちで日々を過ごしています。

さて、潜水艦隊では25大綱に基づき、潜水艦保有数を16隻体制から22隻体制とする計画であり、今年度から実質的な増勢が開始され、現在17隻の潜水艦を保有しています。また、増勢に伴う要員育成にも全力で取り組んでおり、潜水艦教育訓練隊では大幅に学生数を増員し、窮屈な環境の中で教育訓練を行っています。潜水艦の増勢は潜水艦隊のみならず、海上自衛隊にとって大きな意味を持つ計画です。過渡期における苦労もありますが、潜水艦隊を大きく飛躍させるべく、隊員総員で力を尽くしております。

潜水艦増勢が、財政状況の厳しさにも拘らず決定されたことは、近年顕著になってきた周辺３ヶ国の力による現状変更に対する抑止・対処力の柱として潜水艦が期待されていることの現れと言えます。潜水艦隊は、その責務の重大性を肝に銘じるとともに、厳しい任務を完遂するための精強性と即応性に更なる磨きをかけています。

一方で、右記の状況により業務・行動が増加傾向になっているのも事実であり、精強・即応を目指すと同時に業務の見直しや家族への細かい配慮などの働き方改革も推進することによって、隊員が職務に集中できるような環境づくりにも取り組んでいます。

その他の話題としては、本年２月に日本国潜水艦運用１００年、海上自衛隊潜水艦部隊60年の記念式典を開催しました。潜水艦運用の歴史が１００年を超える国は決して多くありません。これは日本の技術力、帝国海軍・海上自衛隊の能力の高さを物語っています。私はこの行事を契機として改めて日本国潜水艦の歴史を振り返り、横須賀が日本の潜水艦誕生の地であることを再認識しました。

この行事に併せて、帝国海軍潜水艦乗りを代表し、伊藤久三先輩に体験談を講演していただきました。実際に戦場を経験された方のお話は大変貴重なものであり、特に真珠湾攻撃やインド洋作戦の体験談には深く感動しました。

最後に記念行事に際していただき

発行　平成28年11月9日
編集　横須賀水交会事務局

横須賀水交会主要行事予定

平成29年３月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交会ホームページ(http://y-suikoukai.daa.jp/))で御確認下さい。

1　幹事会

（1）期日　12月14日（水）
　場所　総合福祉会館
　時間　15：00～17：00

（2）懇親会
　場所　よこすか平安閣
　時間　17：30～19：30
　会費　５千５百円

2　賀詞交換会

（1）期日　1月14日（土）
（2）場所　横須賀商工会議所
（3）会費　４千円（女性２千円）

3　靖国神社月例参拝

（1）期日　2月16日（木）
（2）場所　靖国神社等

ました、安倍総理大臣の祝賀メッセージを紹介し、私の挨拶とします。

「崇高なる務めを黙々とそして一途に果たしてきた隊員の皆様、最先端技術で支えていただいた企業の皆様。皆様こそは真のプロフェッショナルであり、我が国の誇りです。ご家族の皆様に対しても心から感謝を申し上げます。新たな１００年に向け、潜水艦部隊の一層の発展を祈念いたします。」

【投稿】

「私の見た海外」　佐野　恭子

20年前の平成８年の経験を書いた賀状を見つけた。「新年あけましておめでとう。昨年はアメリカ、ヨーロッパを一人旅しました。初夏のニューヨークでは地下鉄のポスターを見て未成年の子のシェルターを知り、押しかけました。麻薬、エイズ、親がアル中でホームレスの子、妊娠中の少女たち・・・。治療し、教育し、自信と誇りを持たせ、手に職をつけさせるのです。その教会のキリストの絵は少年が書いたものでテニス姿にガッツポーズでした。シスターローズは各地のシェルターの為に年間63億円もの寄付金を集めます。アメリカでは税制上、日本と比べ物にならない優遇を受けます。ボランティアも強力に助けます。」

シェルターはマンハッタン西側インントレピッド博物館の近くにある。ポスターは紺地に赤の大きい文字で「医者が、今すぐあなたを診るよ！」カバナント（神との聖約）ハウス・ニューヨークは市で最大のホームレスの、子供・青年の避難所だ、あなたが21歳以下で健康保険に入っていないなら私たちに電話してね。私たちの健康サービス診療所は「あなたの健康」を仕事としているよ。そして再度大きな文字で「料金はかからない・順番待ちリストは無い」・・ポスターは途方に暮れた少年がデフォルメされ自身を嘲笑しているように描かれていた。すぐさま伺った。広い空き地を持つ３階建てのベージュの建物に近づくとカバナントハウスと書かれたマイクロバスが動き出すところだった。わたし見学したいの、これからどこに行くの？「スープを配りに行く、あそこがドアだよ。アポは有るのか、普通は会えないよ」と言われた。ドアを開けて貰い「ポスターを見た、見学したい」アメリカの底力。古いコンピューターが寄贈されて山積みの部屋だの、別の階で臨月の少女たちが育児の勉強をしていた。「コンピューターを学ばせて仕事で独立できるようにするのよ」

「途中で投げ出して逃げてしまう子供はいないの」「私たちが、そうはさせない」強い意志に全力のエネルギーが籠っていた。米国で、自分の稼いだ金を政府にではなくキリスト教団体に寄付したいと思えば、団体は贈与税を負担せずに全額を受け取る。入り口ドアに、細い縦長のガラス窓が切り込まれていた。訪問者をいち早く知るためだ。

「晩秋、夜汽車でポーランドに入りました。オシュフィエンツィム（アウシュビッツ）には、中・高生が多数来ていました。とても寒いところでした。私は見学のつもりでしたが、人々は花を抱きしめて来ていました。

クラコフス、そしてブダペシュトでも秋の森は美しく、人々は貧しかった。粗末な肉屋で、わら半紙に載せたソーセージとパンを手づかみで立って食べる夫婦を見ました。でもそれがなんだというのでしょう。老いた夫が老いた妻をかばって食べていたのです。ヨーロッパ文明の巨大さ貧しさ豊かさ。」ハンガリーのブダペシュトで開催された国際女性技術者・科学者会議に、友人のチラ・バンヤス教授が金の為に、私にも招待状を送ってくれた。料金４万円を支払うと「恭子、だれも協力してくれなかった。国際銀行から借金したわ。寄付をしてくれたのはソロスだけよ。」

学会後ハンガリーから夜汽車でポーランドに入った。国境を通る時、バタンバタンと大きい音で部屋を開け官憲が一人ひとりのパスポートを調べた。私を凝視した時、私は見えるように顔を上げた「日本人の顔よ」。ヴィザをわざわざ取りに行った面倒を省けば、あの国境の小屋にこの夜中連れていかれるのか・・。清潔なシーツの夜汽車は走り続け、朝ごは

んのパンとコーヒーを紙コップで洗面台の上の板で食べ、訳の解らない駅名をたくさん通過して・・止まった。掃除のおばさんが何か言って私を引きずり降ろしてくれた。地下道を通り、階段を上がる時にカナダから来た女の子２人連れがトランクを手伝ってくれ・・ソビエト時代のごついホテルに着いた。１泊１万円、イスラエルからの修学旅行の中学生が大勢いた。すぐのバスでオシュフィエンツィムとビルケナウを回った。ガス室に降りていくトンネルの入り口で、青空をバックに鮮やかな秋の色をした銀杏の大木を見た。ガス室を覗く小窓は高い位置についている。人の毛で作ったベージュ色の織物、メガネの山、弾痕の残る銃殺場の黒い板。収容されたユダヤ人の、正面と真横、斜めからの写真が展示してあり、幼な子の微笑み、それぞれの年齢の女の顔、男たちの激しい押し殺した怒りが１人３枚の写真に写されていた。

　アウシュビッツは、女に加えられた残忍で、凄惨な拷問を抜きに考えられない。当然拷問の展示は全くない。ただ１枚、Ａ３大の写真で美しく若い、眉の濃い目の大きな、それは美しい知的な乙女が解放された喜びに、白い歯を見せて医師にだろうか、笑っている写真が有った。写真は上半身で、その裸の肌には無数の大きな傷跡が飛び散っていた。

　粉々になった人生のかけらを拾い集め、収容所から帰還し生き直した勇敢な女性の１人に、フランスの厚生大臣シモーヌ・ヴェイユがいる。彼女は中絶法を成立させ（１９７５年）当時ジスカール・デスタンと大統領を争ったミッテラン、シラク首相より彼女へ国民の期待は大きかった。

　私は平成８年は冬のニューヨークを再訪し摩天楼の博物館でアウシュビッツの人毛の山、まん丸の眼鏡の山、義足の山と共に牛乳瓶が重なり合って透明な泡のように溶け、ビール瓶がくにゃりと垂れたヒロシマの展示を見た。ガラスケースを通して、夕日にきらきら輝くマンハッタンのシンボル、ジュラルミンのクライスラービルが見えた。国連本部からほんの近くだ。

　６年前、夫が参加する「ポツナムという地方都市での自動制御学会」でポーランドを再訪した。20年前のクラコフスは町中を赤くさびたレールが通り、貧しい森の中だった。ただ、大学生に、とてもエネルギーが有ったのを覚えていた。ポツナムもどんな寂れ、貧しいかと思った。ＥＵ加盟後のポーランドは別の国だ。フェラーリ、アウディ、ベンツ、ＢＭＷが片側４車線のアウトバーンをかっとんでいた。宿泊はヨーロッパの有名チェーン「ノボテル」、隣の巨大モールからフランスパンを焼くいい匂いがした。様々な山盛りチーズ、ボルドーワイン、ハム、溢れる果物・天井の高い店内に何でも有り、イスラエルからは無花果が空輸されていた。通貨はズロチ。街には、第二次世界大戦前の古き良きヨーロッパ文化の面影を残したレストランも有り、磨きこまれた階段や手すり、雑の剥製の飾り物が豪華だった。夫と私は人一倍飛行機に乗り地球温暖化の一端を担った。見てきたことを書いていきたいと思う。

「海軍の碑前講和」　海野　幹郎

　日本海海戦記念日にちなんで日本海海戦で使用された無線電信機及びそれに関連する軍艦の話をします。

　日本海海戦は、明治38年、西暦に直すと１９０５年５月27日に行われましたが２００５年５月27日が丁度１００周年に当たりますので、それを記念して「三笠」の展示室を全面的に更新することになり、丁度理事長が同期の元横須賀地方総監佐藤雅君で、事務局長が佃顧問の頃でしたが、お手伝いすることになりまして私は展示室の展示品、写真、絵画等の説明文、キャプションの英訳を担当しました。折角更新するのですから、外国人にも理解できるように展示室の主要な部分のキャプションを英訳して展示することになりました。英訳は約１５０件あり一人では無理なので、ＯＢの古宇田君を含め５人の英語の出来る知人友人に協力をお願いして実施しましたが、地名、人名、艦名等にロシヤ語がたくさん含

まれていますし、歴史的事件や出来事等が沢山出て来ますのでその正式の英訳語を使用する必要があり、みんな苦労しました。しかし、その苦労が日本海海戦を勉強するよい機会にもなりました。

前置きは、それくらいにして本題に入ります。

日本海海戦での圧倒的勝利の原因は、いくつか挙げられますがその中でも私は無線電信機の活用が大きな勝因だと思っていますのでそれについて話します。

幹部学校の兵術同好会の会誌「波濤」の１９８巻（２００８・９月号）に伊藤和雄氏（ＯＢ）の書いた「まさにＮＣＷであった日本海海戦」に詳しい記事がありますので興味のある方はそれを読んでください。ちなみに、ＮＣＷというのは「ネットワーク・セントリック・ウオ―ヘヤ」のことであり情報化時代の新しい戦い、ネットワーク中心の戦いであり、それに対するものがＰＣＷ「プラットフォーム・セントリック・ウオ―ヘヤ」で、艦や飛行機を中心とした従来の戦いです。具体的な話をすると長くなりますので、次の２つについて簡単にエピソード的な話をします。

一つ目は、無線電信機の話です。先ず使用された三六式無線電信機について簡単に説明しますが、当時、ドイツのヘルツにより電磁波が発見され、イタリアのマルコニ―がそれを応用した無線電信機を開発し、いろいろ実験していますがそれを各国に派遣されている海軍武官から当時の海軍大臣山本権兵衛に報告が届いてまして、早速購入しようとしましたが高すぎるので購入をあきらめ国内開発を決めて作ったのが三四式でした。しかし到達距離に問題があり、それを苦労して改修し、明治36年に完成・型式化されたのが三六式でした。木村駿吉海軍技師（咸臨丸の船将として米国に渡った木村攝津守の次男で仙台にあった第２高等学校教授で無線機の専門家だったのを海軍が頼みこんで海軍に入隊）等が苦労して改修・開発し、日露戦争の４か月前に完成しています。

「敵艦見ゆ」の電報を打った信濃丸は、開戦２か月前に海軍に徴用され、電信機は、１か月前に装備されたばかりだったそうです。その時同時に主力艦艇及び陸上の岬や島に作られていた「海岸望楼（監視所）」にも装備されて無線及び有線（陸上は電線により、海中は海底ケーブル）により通信ネットワークが対馬海峡の周囲には完成していたようです。従って、伊藤氏は、ＮＣＷ（ネットワーク・セントリック・ウオヘヤ）で日本海海戦は闘われ、勝利したと言っています。

木村　駿吉

二つ目は、艦の話です。艦では、軍艦「和泉」について話をします。最初に敵艦を発見したのは「信濃丸」でしたが、その電報を傍受するとすぐ現場に直行し、バルチック艦隊に付きまとってその動静を次々と「三笠」に報告したのが軍艦「和泉」でした。軍艦「和泉」はチリ海軍から購入したものですが、海戦後秋山真之作戦参謀が、「敵艦隊の様子が手に取るように判った」と高く評価しています。例えばバルチック艦隊の艦の色は黒で、煙突は「全部黄色」だとか、艦隊の陣形、進路、速度等を細かく報告したようです。

私が退官後お世話になった島津製作所の創業記念館の正面に飾ってある東郷元帥揮毫の感状（感謝状）の存在理由を調べたところ、島津源蔵初代社長が開発した据置式鉛電池が三六式無線電信機の電源として必要になり、会社にあるだけ全部を海軍が調達していったそうですが、それが大変役に立ったとしてその感状が島津に届けられたと会社の創業１００年記念誌に書かれていました。

ちなみに、三笠の展示室にも同じ感状が展示されていますので、見ることができますが、東郷元帥の書かれた感謝状の周りに小さな字で当時の「和泉」乗員全員の名前が書かれ

た独特の感状になっています。その中に、後に海軍大臣になる島田繁太郎大将が少尉候補生として名前が書かれていました。

ついでながら、自動車等にも積んでいる畜電池は島津製作所で最初に作られてまして、そのうち電池部門が分かれて「日本電池」（ＧＳバッテリー）として独立しましたが、そのＧＳは島津源蔵のイニシャルを取ったものだそうです。

一方、バルチック艦隊はどうだったかといいますと、ロシヤで開発したポポフ式無線電信機を積んでいまして艦隊運動や本国との通信連絡に使った様ですが、本国との通信には遠距離のため困難があり、行動中には艦隊の位置秘匿のため無線封止をロジェストウインスキー司令官は命じていたようで、艦隊内の通信にもあまり使ってなかったようです。従って、ロシヤは無線機を持っていながら活用してなかったようで、敗因の一つにもなっているようです。

話出せば、いろいろありますが、長くなりますので、これで終わりますが、日本海海戦では、戦艦「三笠」など外国で造った軍艦に国産の無線電信機を搭載し、それを上手く活用したことが海戦での大勝利に貢献したという話をして、研究開発の重要性を強調しておわりにします。

「編集部注：「海軍の碑」記念行事当日は雨だったので、急遽講話だけは中止して新聞に載せることにした。」

「横須賀市政報告」

市議会議員・幹事　木下　憲司

横須賀市政からトピックスをいくつか報告します。

① 横須賀（旧軍港四市）が日本遺産に認定

今春、文化庁が旧軍港四市（横須賀、呉、佐世保、舞鶴）を日本遺産に認定しました。認定タイトルは「鎮守府　横須賀、呉、佐世保、舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」とされ、横須賀の構成文化財は、米海軍基地内にあるドライドックや東京湾要塞跡としての猿島・千代が崎砲台跡、そして走水水源地など、計16項目です。これは、旧軍港四市が軍港都市として、明治期以降に急速に発展し、日本の近代化の原動力となるとともに、独自の海軍文化を育んだという共通の歴史を、ストーリーとしてまとめ、共同申請したものです。この認定により、歴史保存の前進はもとより、横須賀市民のアイデンティティー認識が深まるものと期待しています。

注：日本遺産とは：文化庁所管事業で、地域の歴史的魅力や特色を通じて、わが国の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として認定し、活用を支援する制度

② 「戦艦陸奥主砲」の里帰り

9月13日、戦艦陸奥の主砲が、お台場「船の科学館」から輸送され、ヴェルニー公園へ移設されました。

長さ18.8メートル、重量約102トンの主砲は、大型クレーンにつり上げられ、公園の台座に設置されました。今後は、塗装や説明板等の整備が行われ、来年3月には事業が完了するとのことです。これまで作業に当たられた方々、そして、募金活動をはじめとして、今回の里帰り事業に尽力された「陸奥の会」の皆様へ敬意を表します。

【参加行事等紹介】

１　「平成28年度練習艦隊入港歓迎行事、出国行事等」

横須賀入港歓迎行事

５月６日（金）、練習艦隊（司令官岩﨑英俊海将補）が、近海練習航海で最後の総監部寄港地となる横須賀に入港しました。

本年度の練習艦隊は練習艦「かしま」（艦長　中村譲介１等海佐）、練習艦「せとゆき」（艦長　酒井憲２等海佐）及び護衛艦「あさぎり」（艦長寺岡寛幸２等海佐）の三隻で編成されています。

今回横須賀に入港したのは、舞鶴で中間修理に従事中の「あさぎり」を除く、「かしま」、「せとゆき」の２隻で、第66期一般幹部候補生課程修了者約１９０名（うちタイ王国海軍少尉１名）を乗せて吉倉岸壁に接岸しました。

岸壁では堂下横須賀地方総監をはじめ各級指揮官等多くの隊員、吉田雄人横須賀市長をはじめとした多くの来賓、各支援団体が出迎えました。

横須賀水交会からも中尾会長及び多数の会員が自衛艦旗小旗・水交会旗を掲げ、横須賀入港を歓迎するとともに乗員の激励を行いました。

入港歓迎行事は、吉田市長から「横須賀で大いに英気を養って下さい。」との歓迎挨拶で始まり、来賓紹介、祝電披露、花束贈呈と進み、最後に岩﨑司令官から参列者に対する感謝の言葉とともに「日本近海における航海実習を経て、顔付きが変わった実習幹部をご覧下さい。２週間後には海上自衛隊として60回目の節目の遠洋練習航海に臨みます。」と挨拶があり、短い時間ではありましたが心のこもった歓迎行事が終了しました。

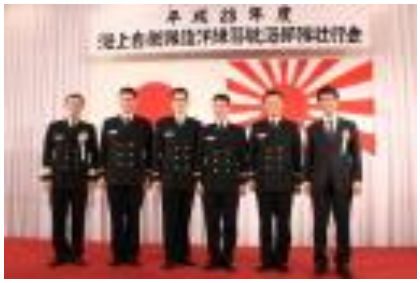
壮行会、歓迎夕食会

同日夕刻、「よこすか平安閣」において横須賀市長、横須賀市議会、横須賀防衛協会、横須賀商工会議所及び横須賀地方総監部共催の遠洋練習航海部隊壮行会が行われました。

壮行会は、主催者代表の吉田横須賀市長の練習艦隊・実習幹部に対する激励から始まり、司令官及び実習幹部代表に対する花束贈呈と続いた後、平松横須賀商工会議所会頭の発声により高らかに乾杯が行われました。

実習幹部は多くの海自ＯＢや支援者との歓談を通じて自分たちに対する期待の大きさを感じ、それに応えようとする意気込みが感じられました。

壮行会は万歳三唱と乾杯での中締めをもって終了となり、参会者一同は実習幹部の前途を祝して万雷の拍手をもって見送りました。



壮行会終了後、場所を移して練習艦隊司令官、各艦長、先任伍長等を招待して横須賀水交会主催の歓迎夕食会が行われました。堂下横総監も参加された夕食会は、中尾会長、堂下総監の挨拶、松崎顧問の乾杯の音頭で始まり、途中で歴代練習艦隊司令官の激励の言葉などをはさみつつ、終始和やかな雰囲気の中での懇談により近海練習航海の労をねぎらいました。最後にユーモアあふれる中締めでお開きとなりました。

練習艦隊は、５月８日に「かしま」、「せとゆき」が、９日には「あさぎり」が晴海に回航し、12日に再び横須賀に回航するまでの間、海上幕僚長や防衛大学校校長から講話を受けるとともに、ジャパンマリンユナイ

テッドで艤装中の「かが」の研修等やテーブルマナー講習を受講しました。（松本　幸一郎　幹事　記）

２　馬門山海軍墓地墓前祭を開催

第61回横須賀馬門山海軍墓地墓前祭が、平成28年5月14日（土）午前9時30分から約1時間にわたって新緑鮮やかな同墓地（横須賀市根岸町1丁目5番地）において厳粛に執り行われました。

今回は、主催5団体（横須賀水交会、隊友会横須賀支部、大津観光協会、大津地区社会福祉協議会、大津地区連合町内会）のうち当会が主幹事となり、例年の受付、会場案内、準備・撤収作業などに加え、司会、追悼のことば奉読などを担当しました。

参列者は、ご遺族並びにその関係者を始め、来賓として吉田雄人横須賀市長、板橋衛横須賀市議会議長、小泉進次郎衆議院議員、牧島功神奈川県議会議員、木下憲司横須賀市議会議員等、海上自衛隊からは杉本孝幸横須賀地方総監部幕僚長、内嶋修自衛艦隊司令部幕僚長、佐藤賢上潜水艦隊司令部幕僚長、下淳市第2術科学校長、池田秀人横須賀教育隊司令、御影清彦横須賀警備隊副長等、米海軍からマシュー・ジェイ・カーター在日米海軍司令官及びジョセフ・ディ・ファーニー地域最先任上級兵曹長、さらに主催5団体それぞれの長・会員並びに一般参列者等計約370名(内当会からは35名)であり、祖国のために散華された英霊を追悼するとともに、わが国及び世界の恒久平和に祈りを捧げました。

なお遺族会が解散し、今回からその参加が得られなくなったことは、一抹の寂しさと時の流れを感じさせるものでありました。

墓前祭は、「国歌斉唱」に続き横須賀水交会会長及び横須賀市長による「追悼のことば」、「黙とう」、海自儀仗隊による「拝礼」及び「弔銃発射」、「献花」の順に円滑に行われました。

横須賀水交会会長は、追悼のことばの中で、わが国の隆盛が墓地に眠る方々の犠牲を礎としていることに深い尊崇の念と感謝の意を表するとともに、昨今頻発激化する自然災害やテロなどの危機を回避し、わが国が今後も平和と安定を享受できるよう今我々がやるべきことは、英霊が往時に体現発露した健全な愛国心などの伝統的な精神の普及と継承に努めることだと述べました。

馬門山海軍墓地は、明治15年（1882年）に海軍省が戦死、若しくは殉職した海軍軍人の埋葬地として開設したものであり、以後、横須賀鎮守府が終戦まで管理運営を担当していました。昭和24年（1949年）、横須賀市が横須賀地方復員局から維持管理を引き継ぎ、以後、一般墓地を造成しつつ、現在に至っています。

また、当墓地には軍艦「河内」、「筑波」等の殉職者、上海事変戦死者等、海軍軍人の英霊1592柱が殉職者之碑・個人墓等に祀られていますが、個人墓の古いものは設置されてから約130年が経過し損傷が激しく、一部には倒壊しているものもあったことから、公益財団法人水交会（横須賀水交会が実務を担当）は、平成25年に半年間をかけて工事（対象墓石約235基を可能な限り元の状態に修復）を行いました。

このように墓地を適切に維持整備していくことによって、馬門山海軍墓地の一層の周知と墓地を訪れる市民の増加を図るとともに、平和や安全について考える契機を促すことも期待できることから、その重要性については、あらためて認識する必要があるでしょう。

今回も海自横須賀音楽隊の支援が得られました。音楽隊は、開式までの事前演奏や「君が代」、「国の鎮め」、拝礼・弔銃発射・献花時の演奏によって会場を荘厳かつ和やかな雰囲気で包むなど、今や式に欠くことのできない存在となっています。

さらに湘南学院高等学校学生による受付や献花の支援活動もすっかり恒例となっていいます。こうした地道な活動は、今の日本が多くの尊い犠牲に支えられているという事実を若者達が理解する良い機会となっています。読売新聞、神奈川新聞及びジェイコム湘南がこれら墓前祭を取材しました。

最後に、毎回元気な挨拶でさわやかに式の準備撤収を支援してくれる横須賀教育隊隊員たち、一糸乱れない動作で高い練度を発揮してくれた横須賀警備隊儀仗隊など海自横須賀地方隊関係各部の支援に対して、主催各団体から、深甚なる感謝の意が、表わされました。

（濱田　暢喜　幹事　記）

3　練習艦隊出国行事

例年、練習艦隊は晴海から出国していますが、東京五輪関連行事の影響で今年は横須賀からの出国となりました。

5月20日（金）、横須賀港逸見岸壁には早朝から多くの見送りの人が集まってきました。横須賀水交会からも多くの会員が参加しました。

10時から行なわれた逸見岸壁での出国行事は、白い制服の実習幹部が凛々しく整列する中、若宮防衛副大臣の訓示から始まり、黄川田外務大臣政務官の祝辞、海上幕僚長の壮行の辞へと続きました。海上幕僚長は壮行の辞の中で、「実習幹部諸官は、国民の大きな期待に思いを致し、遠洋練習航海を通じて海を知り、幹部自衛官として踏み出す地歩を固めよ。また、練習艦隊の総員が外交官であるとの自覚を持ち、訪問先海軍との交流の深化に努めてもらいたい。」と述べられました。その後、訪問国の駐日大使や武官等の来賓紹介、祝電披露、花束贈呈と続き、最後に岩崎司令官から、「広大な海でシーマンシップを磨き、13か国16寄港地（＊）の訪問を通じて親善を深め、若さ溢れる実習幹部が国際的に通用する逞しい海軍士官として成長することをお約束します。行って参ります。」と力強く決意を述べられました。

実習幹部は、横須賀音楽隊が奏でる軍艦マーチに合わせて大きく手を振りながら行進し、颯爽とそれぞれの艦に乗り組み、最初の寄港地パールハーバーに向け出港して行きました。

今年度の遠洋練習航海は東回りの世界一周であり、総航程約３万２千マイル、１６９日間の航海です。安全なる航海を心から祈念します。

（松本幸一郎　幹事　記）

（＊）13か国（16寄港地）：アメリカ合衆国（パールハーバー、サンディエゴ、ジャクソンヴィル、ボルチモア）、パナマ共和国（パナマシティ）、フランス共和国（ブレスト）、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国（ロンドン）、リトアニア共和国（クライペダ）、ドイツ連邦共和国（ロストック）、ベルギー王国（アントワープ）、マルタ共和国（バレッタ）、イタリア共和国（チヴィタヴェッキア）、ジブチ共和国（ジブチ）、ケニア共和国（モンバサ）、スリランカ民主社会主義共和国（コロンボ）、フィリピン共和国（マニラ）

4「海軍の碑」記念行事

横須賀水交会は、平成28年5月27日（金）に横須賀市ヴェルニー公園（ＪＲ横須賀駅前）内の「海軍の碑」前において、記念行事を行いました。

「海軍の碑」は、近代海軍創設から海軍成長とともに発展した軍港都市横須賀の歴史の象徴として平成７年11月17日、全国の海軍関係者及び有志の浄財により建立されたものです。

本行事は海軍記念日（明治38年（１９０５年）５月27日の日本海海戦を記念して制定されましたが、昭和20年（１９４５年）廃止）だったこの日に毎年行っていて、平成13年までは横須賀海友会が、平成14年以降は海友会と合同した当会が実施を担当しています。

当日は終始雨天の行事となり、30

名の出席者は傘をさしながら、あるいはレインコートを着用しながらの参加となりました。時折横殴りの激しい風雨が横須賀港から吹きつけ、例年になく厳しい状況での実施となったため、次第も一部簡略又は省略されました。以前からこの行事に参加している会員の一人は、「雨天の下でこの行事が実施されたという記憶はない。」と語っていました。

次第は、国旗及び軍艦旗の掲揚、海軍英霊に対する黙とう、「海軍の碑」建立趣旨朗読、中尾横須賀水交会会長の挨拶、両旗の降下の順に行われました。記念講話（講師海野顧問）及び鎮魂の譜鑑賞は天候状況を考慮し中止されました。

中尾会長は挨拶の中で、荒天の中参列した有志各位に感謝の意を示すとともに、海軍の偉業を偲びつつ、祖国のため散華された多くの御霊に対する追悼の念と平和の祈りを捧げるため、毎年「海軍の碑」前に集い、短時間であっても行事を挙行、これを継続していくことにこそ真の意義があると述べて、今次行事を厳粛に締めくくりました。

（濱田　暢喜　幹事　記）

5　第32横須賀水交会主催ゴルフコンペ

6月10日(金)、第32回横須賀水交会主催ゴルフコンペを千葉房総半島のエンゼルカントリー倶楽部にて開催しました。

当日は、梅雨入り直前の絶好の好天が期待され、そのとおりの好天ではありましたが、濃霧のため、東京湾フェリーが始発から2便欠航となりフェリーで移動した参加者は、2時間遅れの到着となりました。フェリー以外で移動した参加者の中にも、急遽フェリー乗り場で車両に分乗して移動した方もおり、スタート時間ぎりぎりに集合した24名で、新たなパーティーを組み直し、前半のチームがスタートしました。

この約2時間後、残りの16名で後半のチームがスタートすることとなりました。

ドタバタしたスタートでしたが風のない絶好の天候でした。

参加者は中尾誠三会長以下40名で、当日参加を断念された方が7名でした。

今回の成績は、後日に連絡することとなりました。熊谷昭吾氏が、グロス75、ハンディキャップ３．２、ネット71.8で優勝、2位には林彬氏（95、21.6、73.4）が、そして3位は近藤俊範氏（88、14.4、73.6）がそれぞれ受賞という成績でした。

また、ベストグロス賞には、レギュラーの部では熊谷博之氏がグロス83で、ベストグロス賞ウーマンには、紅一点の斉藤浩子氏がグロス１０８で、シニアの部では熊谷昭吾氏がグロス75で受賞されました。

今回は、フェリーの欠航というアクシデントにより、２つのグループに分かれて実施することとなりましたがゴルフ場の親身な対応と参加者皆さんの現役時代に培った柔軟な対処により、記憶に残るゴルフコンペを実施することができたものと思います。

水交会主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交会会員のみならず、陸海空自衛隊のＯＢや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交会の活動に理解を深めていただければ幸いと思っています。またこの中から水交会に入会していただければこのコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を更に増やしていただくよう今後ともご協力の程よろしくお願いします。

（吉岡　俊一　幹事　記）

6　平成28年度定期総会、講演会及び懇親会

6月17日(金)横須賀水交会の平成28年度定期総会、講演会及び懇親会が、「よこすか平安閣」において盛大に開催されました。

総会は参加者86名であり、加藤幹事の司会により、物故者に黙祷をささげた後、会則の規定により中尾会長を議長として、3つの議案について審議が行われ、いずれも賛成多数で了承されました。

その概要は次のとおりです。①「27年度の事業及び決算報告」ついては、67名の新入会員があり、会員数は26年度末と比較し、14名増の858名であること、また、各事業とも計画どおり順調に実施されたこと。②「新役員の選任」については、10名新任、変更等があり、現状はあわせて、顧問6名、幹事75名、監査幹事2名で構成されていること。③「28年度事業計画及び予算」については、本部業務計画に基づく6つの活動方針ごとに事業計画を策定し、ほぼ例年どおりの事業規模と予算が計上されたこと。

全般質疑で提案のあった以下3件については、今後、常務幹事会で検討することとされました。①「会員名簿の整備」について②「横須賀市の活性化に寄与するような活動」について③「有志会員に対する部隊研修の計画・実施」について。

次に本会会員で平成27年度秋及び平成28年度春に叙勲受章された方々の紹介があり、当日参加された方々に対し参加者全員が拍手をもって祝福しました。

最後に、中尾新会長の就任挨拶が行われ、総会は成功裏に終了しました。

休憩の後、「最近の海上自衛隊の現状」と題して、横須賀地方総監堂下哲郎海将による講演が行われました。

内容は、「最近の周辺国の状況」（北朝鮮の核開発・弾道ミサイル、中国海洋進出、東シナ海、南シナ海の状況の詳細等）、「海上自衛隊の活動の現状」（我が国近海～マラッカ海峡～ペルシャ湾に至るシーレーンの安全確保のための取り組み等、海上自衛隊の三つの活動方針は、①我が国の領域及び、周辺海域の防衛、②海洋領域の安定、③より望ましい安全保障環境の構築）、「横須賀警備区における働き方改革」（トピックス的に働き方改革、日米若手士官交流、厳しい新隊員募集状況、サミット支援等の説明）の3項目でした。数値、グラフを交え詳しく、分かりやすく説明をいただきました。

会員一同、この講演を通じて、改めて我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増している現状と、それに伴う海上自衛隊の任務の重要性の増大について認識できた貴重な時間でした。

講演終了後、会場を移し、小泉進次郎衆議院議員（農林水産委員会理事（自民党農林部会長））浅尾慶一郎衆議院議員（決算行政監視委員会委員）、吉田雄人横須賀市長、県議・市議、防衛関係諸団体代表及び重岡自衛艦隊司令官等防衛省・自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の臨席を得て、懇親会が行われました。中尾会長からの挨拶に続いて、来賓を代表して吉田市長、浅尾議員、小泉議員及び重岡自衛艦隊司令官から祝辞を頂きました。皆様の祝辞からは横須賀水交会に対する深いご理解が感じられ、会員一同深い感銘を受けました。引き続き来賓紹介、祝電披露へと進み、堂下横総監の音頭で高らかに乾杯し、懇談に入りました。

会場のあちこちに再会と交流の輪が広がり、横須賀地方総監の講演内容等を話題にした防衛談義の花が咲

きましたが、香月横地隊先任伍長の中締めの乾杯をもって、名残惜しくも散会しました。

（石井　順　幹事　記）

7　掃海艦「やえやま」、「つしま」自衛艦旗返納行事

6月28日及び7月1日、横須賀港船越岸壁において、平成5年3月就役以来、掃海隊群（11年度までは第2掃海隊群）の中核として活躍してきた掃海艦「やえやま」（やえやま型掃海艦1番艦　艦長　相馬誉介3佐）と掃海艦「つしま」（同2番艦　艦長　増澤寛治2佐）の自衛艦旗返納式が、堂下哲郎横須賀地方総監により執行されました。

6月28日は「やえやま」の最期を惜しむ雨の中、7月1日は「つしま」の最期の晴れ舞台に相応しい好天の中、艦尾に掲揚されていた自衛艦旗が降下された後、同旗が艦長から総監に返納され、式典は厳粛かつ整斉と挙行されました。

両日とも、横須賀所在部隊の指揮官、掃海関係部隊幹部海曹士、沼田横須賀市副市長、防衛関係諸団体の長など多くの関係者が参列され、横須賀水交会からも中尾会長をはじめ会員十数名が参列しました。

堂下総監は、訓示の中で、「やえやま」に対して「平成13年のシンガポールにおける西太平洋掃海訓練及び平成26年のペルシャ湾における米国主催国際掃海訓練に参加するなど、常に海上自衛隊の最前線にあって、その高い能力を遺憾なく発揮してきた。また、4回の航空機の救難作業に従事するとともに、平成11年には神戸沖において爆発性危険物の処理を実施、更に平成23年の東日本大震災に際しては、事態に即応して災害派遣にあたるなど国民の生命財産の安全確保に大きく貢献した。」とその功績を称え、さらに「つしま」に対しては、「平成23年のバーレーンにおける米英共催多国間掃海訓練に参加（中略）また、2回の航空機の救難作業に従事するとともに（以下同文）」とその功績を称えました。世界最大級の木造艦船が相次いで退役するという歴史的な日に立ち会った参加者の多くは、消え去る両艦に名残を惜しみました。

歴代艦長及び乗組員のこれまでのご尽力と両艦の23年間に及ぶ任務完遂に深甚なる感謝と敬意を表します。

（一瀬　良文　幹事　記）

8　横須賀教育隊成績優秀者に対し水交会から表彰

横須賀水交会では、8月22日（月）横須賀教育隊第365期練習員課程及び第58期練習員（女性）課程の修業式、8月26日（金）第9期一般海曹候補生課程の修業式において、成績優秀者4名（男性2名、女性2名）に対し、表彰状及び記念品を中尾会長から贈呈しました。

本表彰は、平成25年度は、横須賀水交会独自の事業として実施されましたが、平成26年度からは、水交会全体の事業として全教育隊で実施さ

れているものです。

８月22日の修業式においては、第３６５期練習員課程３０４名及び第58期練習員（女性）課程77名、26日の修業式においては、第９期一般海曹候補生課程３３２名（男性：２９３名、女性：39名）から選考された学生に対し贈呈されました。

８月22日（月）の練習員課程修業式は、台風９号接近のため午餐会が取りやめになるなど式典時間が前倒しされ実施されました。また、26日（金）の一般海曹候補生課程修業式では、激励賞授与が初めて午餐会会場で実施され、その後、中尾会長から約３分間水交会の紹介が実施されました。両日とも、部内外の来賓や全国各地から来られたご家族等（22日約７００名、26日約６００名）参列の元、中尾会長からの贈呈が整斉と実施され、横須賀水交会の知名度向上に大きく貢献したものと思います。

今回、以下の方々が表彰されました。

第３６５期練習員課程：

神山　達郎（かみやま　たつろう）　二士

第58期練習員（女性）課程：

佐々木　加奈（ささき　かな）　二士

第９期一般海曹候補生課程：

新山　正樹（にいやま　まさき）　二士

鈴木　菜央（すずき　なお）　二士

また、今年度は、初任海曹課程（１２月末・３月中旬修業予定）及び練習員課程（２月修業予定）の計３名に対する表彰も予定されております。

今回、表彰された皆様が、部隊において更なる研鑽を積まれ、海の防人として大きく成長されることを横須賀水交会一同祈念しております。

（清水　利広　幹事　記）

９　平成28年度夏期防衛講座

９月10日（土）横須賀地区防衛諸団体共催の横須賀夏期防衛講座が、神奈川歯科大学大講堂において開催されました。

今回の講師は、ジャーナリストの櫻井よしこ氏であり、当日は、今年の夏を象徴するような猛暑の中ではあったものの、国会議員及び地方議会議員並びに約25名の現職自衛官を始め約90名の防衛大学校学生及び約60名の高等工科学校生、そして来賓、各団体会員等、総計約６００名の聴講者が集まりました。

第１部「講演」においては、小山横須賀防衛協会会長挨拶の後、佐々木横須賀隊友会会長による講師紹介が行われ、引き続き「激動する世界と日本の進路」と題し講話が行われました。

講師は、冒頭において現在がまさしく百年に一度の大きく世界が変わる局面に立たされているのだと強調することにより、聴講者の興味を引き付けました。

そして、聴講者にとっても身近な話題である、安倍晋三総理大臣のロシア、中国、東南アジア歴訪において、安倍総理が極めて戦略的に動いたことにより、一つ一つの訪問において世界が変わっていることについての説明がありました。特に、ロシアとの関係では、安倍総理がプーチン大統領との個人的な信頼関係に基づき、日露が協力することにより領土を取り戻す努力をしていること、それがひいては中国への抑止力にも繋がることを指摘し、アジアにおいても、地政学が変わりつつあるとの説明がありました。また、この日露の関係を強めることにより、中国との関係で我が国が優位に立てることを指摘するとともに、インド、ロシア、中央アジアを繋いでいくことが中国への抑止力になるのだということが強調されました。そのためにも我が国にとってロシアとの関係の良好化が不可欠であることを、講師は指摘しました。

講師は、米中の駆け引きについても言及され、新聞等では読み解くことのできない各国首脳等の利害を踏まえた外交交渉など、大変興味深い話を聞くことができました。我が国も安倍総理就任後、したたかな首脳外交により成果を上げていることに

ついても説明があり、大変参考となりました。

米国の次期大統領選挙にも言及され、これからの米国はこれまでの米国とは変わっていくであろうことについても触れられ、我が国の今後のあるべき姿についても警鐘を鳴らされていたことが印象深かったです。また、中国のＡ２／ＡＤ戦略から、米国のエアシー・バトル、オフショア・コントロールについて、平易に説明されるとともに、この様な環境下で、自衛隊が警察官職務執行法の中でしか行動できないことに疑問を呈したことで、多くの参会者が溜飲を下げていました。

特に、米国はこれまで世界の警察官として世界の平和と安定に寄与してきましたが、これが薄まる可能性について指摘し、大きな戦後の構図が壊れ、これまでの方程式では解けない国際情勢になりつつあることを指摘しました。そのような中で講師は、戦後経済に特化してきた我が国であるが、これを変え、憲法を改正して自衛隊を国軍にするか、それが無理であれば自衛隊の予算を二倍にすることを提言して講演会を締めくくりました。聴講者は大いに満足し、万雷の拍手の中、講演は終了しました。

講演後、小山会長が講演についての感想と謝辞を述べ、第１部は終了しました。

第２部「納涼懇親会」は、場所を「神奈川歯科大学学生食堂」に移して実施されました。懇親会は、古谷範子厚生労働副大臣、三原じゅん子参議院議員、島村大参議院議員、三浦信祐参議院議員を始め、県議、市議及び自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の出席を得て行われました。

講師の櫻井よしこ氏も冒頭20分程度ではありましたが、ご出席いただき会員と懇親を深めることが出来ました。そのため通常は、冒頭で来賓あいさつなどを頂いていたのを、講師との懇談の機会を設けるために、挨拶は会の途中に移し、中尾水交会会長の乾杯により、会が開始されました。

懇親会が開始されると、講師の周りには、講演に対する感動の気持ちを伝える者等で人だかりができ、会は開始早々、大きな盛り上がりを見せました。講師は、予定よりも若干時間を延長した後、参会者に見送られ、会を後にしました。

講師が退場された後も、会場のあちらこちらで防衛論議に花が咲き、予定した時間は瞬く間に過ぎ、名残惜しさのある中、散会となりました。

平成28年度横須賀夏期防衛講座は、無事終了しましたが、これまでにない規模の講演会と懇親会を成功裏に終了することが出来たのは、横須賀隊友会を始め企画運営に携われた役員のおかげであると多くの参会者が感謝していたのでここに紹介する。

（徳丸　伸一　幹事　記）

【トピックス】

１　「浜空鎮魂の碑」慰霊祭

４月３日（日）浜空会（横浜海軍航空隊の会）は、横浜市金沢区富岡総合公園内の浜空神社跡地において、満開の桜の元で「浜空鎮魂の碑」慰霊祭を30名の参加者を得て斉行されました。

横浜海軍航空隊は、昭和11年10月１日にこの地に開設され、その守護神として浜空神社が造営され神社を中心とした広大な陸上の敷地と現在埋め立てられた根岸湾に水上の飛行艇発着場を占有していました。隊員約１０００名、大型飛行艇24機を有する海軍最大の飛行艇専門航空隊としてその威容を誇っていました。

慰霊祭には、元浜空隊員を始め遺族会及び隊友会、横須賀水交会、湘南水交会等の海自ＯＢも参列しました。昨年に引き続き現職隊員、統合幕僚監部最先任宮前准尉、自衛艦隊先任伍長小滝曹長、横須賀地方隊先任伍長香月曹長が休日を返上し先人の尊い命を偲ぶため慰霊祭に駆けつけてくれました。

慰霊祭は、軍艦旗掲揚に引き続き

雷神社（追浜）秋山宮司による「修祓の儀、献饌の儀、玉串奉奠、撤饌の儀」が行われた後、軍艦旗降納を行い無事に終了しました。

終了後の懇親会は、早朝からの雨で足場が悪く中止となりましたが、場所を公園内の桜の木の下に移動し有志による直会を開き、浜空隊員への思いをそれぞれに語り合いました。

横浜海軍航空隊は、昭和16年12月8日大東亜戦争が勃発するや直ちに第一線に出動し、飛行艇の強大な航続力を発揮して洋上大遠距離の哨戒攻撃輸送救出作戦を展開し、ハワイ・インド・アリューシャン・豪州・ソロモンにわたる広大な戦域を駆け巡り勇戦奮闘しました。作戦上部隊名を８０１航空隊に変更し戦争終期には兵力集中のため宅間航空隊に全飛行艇を集結して沖縄攻防戦に死闘を演じ満身創痍全力を尽し果たして戦いの幕を閉じました。中でも横浜海軍航空隊はソロモン最前線のツラギに進撃作戦中強力な敵の反撃を受け昭和17年８月宮崎司令以下３３８名が壮烈な玉砕を遂げたのです。

多くの戦史文献を眼のあたりにすればするほど、当時の壮絶な戦いが蘇り海上自衛隊ＯＢとしては胸が熱くなり、大先輩の英霊に対し敬意を表し今後も慰霊顕彰の火が絶えないよう快く行事に参加したいと強く心に刻んだ次第です。

浜空会を運営しておられる、会長加藤亀雄氏は先月から体調を崩され本慰霊祭を欠席され、参加者皆が快方を願いました。加藤氏はすでに89歳を過ぎ長年続けてこられた経緯をお聞きしたところ、多分に漏れず後継者がおらず今後の慰霊祭の開催を危惧されておられました。昨年来、多くの関係諸団体にこの問題の実情を理解していただくために加藤氏の思いを伝えてきましたが、まだまだ周知するまでには至っていません。

この横浜海軍航空隊に思いを馳せて祖国を旅立ち、日本のために尊い命を捧げられた多くの御霊に永久に慰霊を捧げられるよう、皆様のご協力をお願いし終わりとします。

（高橋　進　幹事　記）

２　靖国神社等月例参拝

６月16日（木）恒例の靖国神社等月例参拝を実施しました。当日の天気予報では、午後から雨との予報で、集合時刻の13時ごろ靖國神社では、小雨がパラツク状況でした。

水交会の月例参拝は、旧海軍及び海自ＯＢを主体に行われていますが、今回、旧海軍出身者は、兵学校73期の安田　健夫氏以下、甲飛会、計８名、海自ＯＢは、幹候４期の興世田勉氏以下クラス代表32名、その他有志会員２名、電子会１名及び水交会本部７名の合計50名でした。更に、横須賀水交会からの参加者14名を加え、64名の大人数の参拝となりました。

横須賀水交会については、２年前の２月は27名、７月は32名と多人数でしたが、昨年は２月10名、６月14名、今年の２月はクラス代表も兼ねて21名とほぼ横ばいとなっています。今後も積極的な参加を是非呼びかけていきたいと思います。次回は、２月です。月例参拝の参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

徳川泰久宮司からは、５月16日（日）に練習艦隊司令官（海将補　岩﨑英俊）及び実習幹部約２００名が遠洋実習航海の安全祈願のため来られたこと。昨年11月の新嘗祭における韓国人によるトイレ爆発事件の裁判が行われ、結審されたこと。御霊祭（平成28年は13日～16日）では、混雑緩和のため露店（屋台）の出展は、禁止しているが、若者に興味を持ってもらう工夫をしていきたい等大きく３つのお話でした。

千鳥が淵では（公財）千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会から、主に次の説明がありました。平成28年度の遺骨引渡し式の予定、海上自衛隊遠洋実習航海部隊が参拝に来られたこと、安倍総理の参礼式における献花の状況についてでした。墓苑奉仕会からの説明の後、各自、生花を手向けてお祈りをしました。当日の午前中に墓苑奉仕会事務所の近くにある大賀ハスの花が1輪きれいに咲いていたそうです。

バスの送迎を得て、防衛省慰霊碑に向かいました。その車中でハスの花は、「ポン」という音を立てて咲くという話が出ました。スマホを使ってネットで調べたところ。「ポン」という音はしないそうです。

到着後、海幕総務課長、わだつみ会会長の挨拶を受け、幹候４期の與世田様が代表して献花し、慰霊参拝を行いました。

その後、直会参加者は各個に水交会本部へ移動し、直会が行われました。

開会の辞は、前横須賀水交会会長の土井克彦幹事に挨拶を頂き、献杯を一同で上げました。

暫くは、お酒と料理を楽しんだ後、今回初めて参加の山田建雄様からのお話しをお聞きしました。

山田様は、亡きご尊父様が海軍に所属され、最後は駆逐隊司令で戦死されたとのことです。ご本人は、航空自衛隊に入隊されていたそうです。出身は一般大学で防大４期相当ということです。子供のころには昭和13年から17年まで横須賀にも居住され、お父様は宗谷の艤装員長をされたそうです。そのときお母様と朝早く大津海岸から見送ったこと覚えておられました。

その後、参院選の話題などで話が盛り上がりお開きとなりました。

（大野　慶二　幹事　記）

【お知らせ】

１　ファミリーサポートセンター会員の募集

横須賀水交会ではファミリーサポートセンターの会員を募集しております。詳細は横須賀水交会ホームページをご覧ください。趣旨に賛同される方は次の担当常務幹事のいずれかにご連絡ください。皆様の連絡をお待ちしております。

加藤保幹事：090-4248-4829
山口透幹事：090-1694-2690
高橋進幹事：080-5083-2933

２　カード同好会会員の募集

会で実施するカードとは、トランプの中の王道といわれる、コントラクト・ブリッジです。合理的思考力、記憶力、集中力などを駆使する知的で面白いゲームで、楽しみながら脳を活性化させ、かつての若々しい脳細胞が蘇るので、カード同好会にボケや認知症という言葉はありません。

現在、50代から80代までの方、約20名が所属しており、毎月第２土曜、第４水曜の午後に開催しています。

経験者は勿論、初心者も大歓迎です。百聞は一見に如かず。まずは一度ご覧になってください。

「年齢に関係なく遊べるゲームだ。若いときに覚えれば一生楽しめる。ブリッジのような奥深さを持つゲームはめったにない。」　ビル・ゲイツ

連絡先
一瀬良文幹事：090-3685-6517
満尾哲郎幹事：090-4544-1618

3　幹事会終了後の懇親会に参加してみませんか！

横須賀水交会では９月、12月及び３月に幹事会を開催しており、終了後には自衛官等をお招きして懇親会（夕食会形式）を実施しております。平成28年度からはこの懇親会に役員以外の会員の皆様にもご参加いただきたいと考えております。これまで会員同士の交流機会が総会や賀詞交歓会などに限られていたことを解消するための試みですので、ふるってご参加ください。

開催日や懇親会会場、費用等につきましては、開催日の概ね１か月前に横須賀水交会ホームページ（当面の活動予定欄）に掲載いたしますので、参加を希望される会員はお手数ですがお葉書にて事務局までお申し込みください。

なお会場準備の都合もありますので、申し込み及び変更につきましては開催日の10日前までに完了して頂くようお願いいたします。

葉書宛先：〒237-0046
横須賀市西逸見町１丁目無番地
横須賀地方総監部付
横須賀水交会事務局宛

記載事項：参加される方の氏名、会員番号、連絡先

叙勲受章者

次の会員の方が叙勲を受けられました。（敬称略）

春の叙勲

瑞宝中綬章　田内　浩
瑞宝小綬章　佐野　義行

（本多　一雄　事務局長　記）

訃　報

４月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。（敬称略）

鈴木　周太　平成28年7月18日

（本多　一雄　事務局長　記）

新(編)入会員

（28年2月～28年10月）

次の方々が横須賀水交会に新たに入会（編入）されました。（敬称略）

小島　昌二（幹候83）　海沼　秀幸（横教３４０）田尻　裕昭（幹候83）
平子　清二（部内91）高山　俊朗（幹候83）　黒木　忠広（幹候83）
色川　喜美夫（幹候74）杉山　綾那（有志）高倉　葉子（有志）菊池美智子（有志）松村　史朗（有志）滝野　隆宏（有志）飯塚　幸子（有志）吉田　博昭（有志）足立　公一（横教85）齋藤　博(有志)池田　徳宏（幹候81）田川　和幸（幹候83）内嶋　修（幹候82）大川原　正樹（有志）宮内　康一（遺族）山下学（有志）小坂　明彦（幹候83）柳　秀樹（有志）井上　力（幹候80）平田　文彦（桂　眞彦幹事）

【編集後記】

10月19日(水)午前、薄曇のため、暑さが和らいだ長崎市。三菱重工業長崎造船所において建造が進められている２５ＤＤの命名・進水式が行われ、これに参加させていただきました。一般招待者を含めると約１０００人の方々が見守る中での開式となり、国家独唱は、海上自衛隊東京音楽隊の三宅　由佳莉３曹でした。そののびやかな歌声に感動しました。

命名式において、「あさひ」と命名され、若宮健嗣防衛副大臣が支綱切断、音楽隊の演奏とともに「あさひ」は、ゆっくりと船台を動き始め、くす玉が割れ、中から色とりどりの風船が出て大空に向かい、色とりどりの紙テープがまるで滝のように流れ出ました。さらに加速され、無事「あさひ」は、進水しました。平成30年３月の就役まで、艤装工事、海上公試が続きます。

進水式の後、場所を移して、祝賀会が開催され、若宮副大臣、渡辺秀明防衛装備庁長官他、装備庁、海上幕僚監部及び海上自衛隊の方々も多数参加されていました。新型艦艇の無事進水のお祝いと無事の就役を祈念し、祝賀会は大盛況でした。

紙面の充実を図るためには会員の皆様のご協力が不可欠ですので、今後とも積極的な投稿をよろしくお願いいたします。

（編集担当　石井）